

## 第95回 大東祭(11/4) 大東文化歴史資料館特別企画

11/4sat

①11:00～

②14:00～

※10時～15時

開室

# 大東文化学院・三部制の導入 ～『漢学』の学校から文科系総合大学への胎動～

場所：板橋校舎2号館(研究・管理棟)1階 大東文化歴史資料館展示室

講師：谷本 宗生(大東文化歴史資料館専任研究員・大東文化大学東洋研究所特任准教授)

### 大東祭期間内特別企画内容

開室日時：11月4日(土)10時～15時(※見学無料)

展示場所：板橋校舎2号館(研究・管理棟)1階 大東文化歴史資料館展示室

解説日時：11月4日(土)①11時～、②14時～(※解説時間は約20分)

解説内容：大東文化学院時代の学院史について(※下記「解説概要」をご参照ください)

### 解説概要

大東文化学院は、大正期末「漢学振興運動」を背景に設立された学校です。本学院は、主として漢文科中等教員養成(本科)と漢文科高等教員養成(高等科)を目指す専門学校として存在し、1931(昭和6)年までは給費制でそれ以降は奨学金制(入学金及び授業料の徴収)へと移行します。1938(昭和13)年、学院本科を三部に分ける「三部制」(第一部 修身漢文科、第二部 国語漢文科、第三部 東亜政経科)を導入します。三部制が導入された翌年度には、学院の入学定員は第一部50名、第二部50名、第三部80名に対し、志願者数が3倍超(東亜政経科は5倍)となります。急激な学生増の事態を受け、狭隘な九段校舎から学生収容能力ある新たな池袋校舎へと、1941(昭和16)年に移転します。当時の学院卒業生らの進路も、時局に応じて「内地及び満洲支那に於ける教育界を初めとした官衙、会社、銀行、商店等」(『受験旬報』9(48)1940年)であったといわれます。

本学院は、その後1945(昭和20)年の戦災により池袋校舎を焼失し、酒井忠正邸の仮校舎を経て、翌1946(昭和21)年には葛飾区青砥に校舎移転し戦後の復興を目指すこととなります。青砥の地は残念ながら教育環境として十分に整えられていなかったため、戦後新制大学の設置申請のためには、池袋の旧校地を拡張して図書館や運動場等の施設を併設した校舎の整備が必要とされました。1949(昭和24)年、新学制に基づき設置認可された東京文政大学は、初代学長に土屋久泰(竹雨)が就任し、1学部3専攻(文政学部中国文学専攻・日本文学専攻・政治経済学専攻)で発足しますが、池袋校舎拡張計画の実施がその設置条件に附されました。



たにもと むねお

講師：谷本 宗生

大東文化歴史資料館専任研究員

大東文化大学東洋研究所特任准教授

研究分野：教育学、アーカイブ、

地域社会、大学・学生生活